

〔選択科目：眼科〕

1．研修内容

1ヶ月が基本とするが、8ヶ月まで選択可能である。

眼科的疾患の診断に必要な眼科検査、眼科器機について学び、使用できるようにする。

眼科的主要疾患を経験する。

2．一般目標

一般臨床眼科医として必要な基礎的疾患の理解と診断能力を身につけると同時に眼科的救急処置を実際に行えるようにすることを目指す。

3．行動目標

(1) 眼科臨床に必要な基礎的知識(眼の解剖、組織学、発生、生理、眼光学など)を修得する。

(2) 検査の目的、内容について理解する。

4．研修目標

(1) 経験した方がよい主要疾患

屈折異常、角結膜疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、硝子体疾患など。

(2) 研修すべき主な診断・検査法

視力、色覚、屈折、調節、眼位、眼球運動、細隙灯顕微鏡検査、眼圧、隅角、眼底、視野、電気生理学的検査、超音波、蛍光眼底造影検査。

(3) 研修すべき手技・治療法

基礎的治療手技：点眼、涙嚢洗浄、眼鏡処方。伝染性疾患の治療および予防、眼外傷の救急処置、急性眼疾患の救急処置(緑内障発作等)、入院手術患者の術前および術後処理。各種レーザー手術手技。

白内障、翼状片、眼瞼下垂、斜視などの諸手術。

5．研修実績

(1) 一般臨床眼科医として必要な諸疾患の基礎的知識を習得する。

(2) 眼科的診療諸手技を習得する。

(3) 細隙灯顕微鏡、倒像鏡を使用できるようにする。

研修期間は1ヶ月が基本だが、最長8ヶ月間まで延長可能であり、期間に応じて経験患者数は増加する。